

第 3 回 勉強会報告

《 内 容 》

日時：1993年5月26日（水） 13:00～17:00

場所：淀川キリスト教病院 オリーブ棟3階

会費：500円

プログラム：相互貸借業務について

- 1) 導入 病院図書室とネットワーク
星ヶ丘厚生年金病院 首藤 佳子
- 2) 実務の基礎
大阪府立母子保健総合医療センター
徳田 雅子
- 3) 実務の応用
京都南病院 山室真知子
- 4) 受け付ける立場からの留意点
住友病院 松本 純子
- 5) 実習
社会保険神戸中央病院 林 伴子

参加者：27名（会員23名 非会員4名）

《 報 告 》

今年度の初心者向け勉強会は、相互貸借業務を取り上げた。病院図書室の様々な実務の中から特にこの業務を取り上げたのには、この4月からのMRの医療情報提供自粛という状況変化がある。病院に勤める医師らは、MRを介して手にしていた文献複写物の入手ルートを断たれてしまった。そこで病院図書室の相互貸借業務がその代替を担わされるようになったのだが、「文献複写物の入手」ルートを求めて新規入会しようとする機関には、それこそ時宜を得た企画となったと思われる。企画者側は、新規入会機関の図書室担当者および新任担当者の参加を予想していた。ところが、ベテラン担当者や入会を検討中という機関の参加希望があり、予想をはるかに超える22名という参加者を迎えることとなったため、当初予定していたマンツーマン式指導ができなくなった。従来の

“開かれた図書館”という事では、病院図書室にとって重要な文献複写については、文部省としては大学図書館の学外利用には積極的に応じていく方針のようである。JMLAもこの方針に従ってサービスを考えているらしい。

その他、行政機関との折衝のための法人化の問題などが検討された。

今回の総会では、JMLAが病院図書室に対して、“開かれた”存在であることを強調していることが特に印象深い。病院図書室は、文献複写をはじめ、大学図書館の援助を受けざるを得ない立場であるので、“—していただいた”という意識から逃れることがむずかしい。大学と病院では最初から存在意義そのものが異なっているので、病院図書室が広い意味での利用者としての立場を確立できればと考える。

一方、前述のように、正会員として、病院図書室を包含しようとする動きがある。しかし、加盟館以外にも教育とサービスの提供がなされるならば、資金的に難のある図書室が果たして入会に踏み切るだろうか。但し、組織が大きくなれば、会員、非会員のサービスの差が今以上になることもあり得る話で、病院図書室の加盟が可能になった時点で、加盟館以外へのサービスが制限されるといった事態にならないければいいのだがと考えてしまう。

いずれにしても、まだ決定事項ではなく、細かい議論がなされるであろうから、今後の動向を見守っていきたい。

《第5回名古屋研修会のお知らせ》

標記研修会は10月30日（土）、名古屋第二赤十字病院で開催いたします。テーマは「相互貸借」を取り上げますが、詳細なプログラムは追ってお知らせいたします。

形式を期待して参加した会員は、戸惑われたかもしれない。

導入編では、いま病院図書室からアクセスできる図書館相互協力ネットワークと文献複写物入手する様々な経路について概論した。参加者のイメージにあった「複写物」という物としての「入手」が様々な館種の図書館相互協力活動によって行われていることを端的に理解できたと思われる。

基礎編では、なんら目新しい新技術を披露したわけでもなくJMLA相互貸借マニュアルに忠実に従うとこのようになります、という模範を紹介したのだが、ベテラン担当者ですら初めて聴く内容もあったようだ。やはりマニュアルを完全に理解し実践している担当者は少ないように思われた。基本的な手順を解説したあとに、それでも困難な場合の解決法を応用して紹介した。さらに、受け付ける立場から申し込む側に望みたいことを話してもらい、受け付ける側の立場を考えた上で相互貸借業務に臨まねばならないことを強調した。

このあと会場を提供して頂いた淀川キリスト教病院の御好意でコーヒープレイクとなった。その休憩中にも複写料金の支払い方法についての質問がでたり、個々の目録類についての解説を求められたりと参加者の熱意が窺えた。

講義で学んだ事柄をどの程度理解できたか、いよいよ実習によって試してもらおうこととなった。司書講習のカリキュラムに参考調査実習というのがあったが、この相互貸借実習はそれを思い起こさせるような風景だった。

今回の勉強会のために相互貸借業務に必備のツールを各種取り揃えておいたので、これから目録類を揃えようとする病院にはとても参考になったようだ。値段を見て驚いていた参加者もいたが、相互貸借業務を行うにはそれを相応のコストがかかることを、理解していただきたいと思う。

(文責：徳田雅子・研修部)

平成5年度 第1回、第2回幹事会報告

■ 第1回(4月21日、星ヶ丘厚生年金病院)

I 各事業部報告と協議事項

事務局(総務・会計) ①案内：県立尼崎病院、県立西宮病院、公立学校共済組合近畿中央病院。②会員異動：別掲参照。③会計担当幹事の加島民子氏が3月から療養のため欠勤。④近畿地区医学図書館協議会第56回例会(5/14奈良県立医科大学)へ加島民子氏、松本純子氏が出席。⑤JMLA第28回研究集会(8/18-20 日本大学塩原研究所)の案内。

研修部 ①第67回研修会(事例報告会)の出席者は40名。②4月10日に打合せを持ち、5月の勉強会と7月の研修会では相互貸借の基本と問題点をテーマとする企画を立てた。

会誌編集部 ①会誌13巻1号の経費と発行経過報告。②13巻2-4号の編集企画について報告。

統計調査部 特になし。なお、昨年度まで担当していた笠原廣子氏が幹事から退かれたため、新幹事が担当することになった。

総合目録編集委員会 事務局から補佐に就いたが年度末のため、作業を進めることができなかった。

II 決定事項

(I) 平成5年度の事業部の分担を次のように決定した。〔◎は部長、※は一般会員〕

事務局：会計；松本 純子(住友病院)

総務；松井美抄枝(大阪労災病院)

研修部：◎徳田雅子(大阪府立母子保健総合医療センター)、山室真知子(京都南病院)、林伴子(社会保険神戸中央病院)※

会誌『病院図書室』編集部：◎首藤佳子(星ヶ丘厚生年金病院)、前田元也(西淀病院)、山崎捷子(淀川キリスト教病院)、中嶋和子(西宮市立中央病院)※、浜口恵子(高槻赤十字病院)※、田中泉美(国立姫路病院)※

統計調査部：◎木下久美子(高山赤十字病院)

総合目録編集委員会：◎加島民子(大阪回生病